

審査委員長特別賞

Show 店劇場

福島県 | 福島県立郡山北工業高等学校 選手…3年生3名



『皆さんは「ALWAYS 三丁目の夕日」という映画は見たことがありますか。東京の下町の商店街が舞台となっています。昭和30年代、まだ下町には、住まいと仕事場が直結した賑わいのある町並みが残り、人々は町全体で暮らしていました。町には地場の人が営む、魚屋、八百屋、肉屋、豆腐屋、町工場、電気屋、ガラス屋、畳屋、ペット屋、文房具屋、薬局、診療所など生活に必要な施設が点在し、商売だから当然外に向かって開いた店構えをしていました。そしてその奥や2階には住まいを構え生活をしていました。』と課題文に書いています。

まさにこの案は、ある意味テーマに沿った職住一体でまちに賑わいを作り出していた店舗併用住宅のリノベーションです。高校教師でありながら演劇の脚本・演出家である施主がまちに開いた劇場を運営するというプログラムもテーマに沿っていて、題材とした旧吉田薬局は高梨幸平太設計によるアール・デコ調の看板建築で建築自体が素晴らしい。まちの景観を牽引し賑わいを作り出していたと想像できます。まちに開いた小劇場が誕生することで、昔の賑わいの一端が復活すると思われます。その点がとても優れていると思いますが、劇場としては階高等少し貧弱な気がします。敷地の後ろに増築するなどして、2層の階高を



利用、既存すべてを劇場にしたほうがさらに良くなったと思います。

まちの有効な資源を利用するという点で優れた案です。よって審査委員長特別賞を贈ります。おめでとうございます。(堀)